



半田 滋の

Handa Shigeru

新・安全保障論

第119回

30年超の取材で初めて目撃 住民を恫喝、おどる自衛隊

と大声で怒鳴りつけた。別の住民が一部始終を録画していて、司令が恫喝する様子が映っていた。

駐屯地側は駐車場を管理する県に使用許可を申請しておらず、そもそも工作物の設置など通行の妨げになる以外に許可は必要ない。住民の立ち入りも自由だ。

19日にあった住民と駐屯地側との面談で比嘉司令は「私の行動が威圧的に捉えられたのであれば本意ではない」と述べ、「上級部隊を含め組織として確認している」と繰り返した。中谷元防衛相は29日の会見で、上級部隊が「指導した」とし、懲戒処分は否定した。

2019年に開設された宮古島駐屯地は市街地の中にあり、適地とはいえない。防衛省は島の北東部に位置する牧場を候補地としたが、当時の市長が赤字だったゴルフ場を駐屯地として購入するように求め、実現した。その見返りとし

て元市長はゴルフ場経営者から賄賂を受け取った疑いで逮捕され、有罪となった。

駐屯地に配備された地对艦ミサイル、地对空ミサイルの推進装置「ブースター」が市街地に落下するおそれがあり、有事の際には駐屯地から発射機を移動させなければならない。その事実を熟知しているのが駐屯地司令だ。

どこの駐屯地でも物資の輸送・補給、陣地の構築などあらゆる面



住民(左)を怒鳴りつける比嘉単人1佐。(上里清美住民連絡会共同代表提供)

で住民の理解と協力は欠かせない。だから全国の隊員たちは地域に溶け込む努力を重ねてきたが、沖縄ではそんな常識の底が抜けたようにみえる。

沖縄戦で日本軍を率いた牛島満司令官の辞世の句は、軍が改ざんして当時発表した。那覇市の第15旅団はホームページに改ざんした句を再掲載している。「秋待たで 枯れ行く島の 青草は 皇国の春に 甦らなむ」。この句は「敗色が濃厚となった沖縄の臣民は、大日本帝国のためにまた立ち上がってほしい」と解釈できる。新憲法の下で自衛隊が引き継いでよい考えであるはずがない。

対中国を意識して沖縄の離島に駐屯地が次々に開設され、防衛費も倍増された。重要な役割を担うとの思いがおごりにつながつてはいないか。沖縄の人々は先の大戦で「本土防衛の捨て石」とされた屈辱を忘れていない。住民との融和を軽視する自衛隊は急速に劣化し始めているのかもしれない。

はんだ しげる・防衛ジャーナリスト。近著に『パラレル 憲法から離れる安保政策』(地平社)。

防衛省・自衛隊の取材を30年以上続けてきて、自衛隊幹部が住民を怒鳴りつけ、威嚇する姿を初めて見た。

8月6日午前6時20分ごろ、沖縄県宮古島の公共駐車場で休憩していた陸上自衛隊宮古島駐屯地の隊員約30人に住民の清水早子さんが「おはようございます。戦闘服姿の向こうに、こんなきれいな朝日を見るのはとても残念です」と拡声器で呼び掛けた。すると部隊を率いていた駐屯地司令の比嘉単人1佐が詰め寄り、「ここは許可を取っている。許可を取ってこい」